

現代英米文化学会 会報

#004

Published 1 September 1990

題字は勝浦先生

★学会からのお知らせ★

< 会員名簿発行 >

永らく御待たせしておりました平成二年度の会員名簿が出来上がりましたので、今回のニュースレターに同封して御送りしました。御住所、電話番号の変更・訂正は佐藤治夫先生まで。学会では、この他に、勤務先名称、勤務先電話番号、同内線、ファックス番号なども記録しておりますので、お知らせくだされば幸いです。

< ワープロをお使いの会員の方々へ >

日本語ワープロを使っての執筆が大変盛んになっております。ワープロ原稿を受付ける出版社・印刷所も増加してきましたので、今後はワープロのディスクで御投稿なども受付けることができるかもしれません。ワープロでの原稿投稿の場合は、機種の関係もございませぬので、前もってお問い合わせください。

< 『現代英米文化』第21号の投稿募集します。 >

次号の『現代英米文化』の投稿締切は平成2年11月末日となります。投稿される方は、お名前、所属、抜き刷りの希望部数（指定が無い場合は30部を自己負担することとなります）を表紙に記入して、佐藤治夫先生まで郵送してください。なお会誌の末尾の投稿規定に従っての投稿をお願いいたします。アブストラクトは、和文の論文には英文、英文の論文には和文のものをそれぞれ添付してください。

< 会員の動き >

— 新入会員 —

新しく会員が三名入会されました。会員名簿が同封してありますので今回は住所などの紹介は省略させていただきます。



【第八回大会研究発表要旨】

W.S. Maugham の女性像

— The Moon and Sixpence 等を中心に

村岡 昌代

表面的には Maugham 自身の母のような聖母的女性、内面的には Cakes and Ale に於ける Rosie のような天衣無縫の女性、つまりこの二面性をもつ女性を Maugham は女性像としていたと考える。

しかし、現実にはこのような二面性を有していて、しかもそれがほどよい調和をなしている女性が果して存在するであろうか。実際このような女性は存在しえず、存在しえないから彼の願望は満たされない。従ってこの理想的女性は Maugham の心の中でのみ永遠の女性として生きつづける女性なのである。愛する女性にはいつも好意をもたれなかったと述べている Maugham の女性像を順次描出する。

I. マードック The Message to the Planet (1989)

--風景の構図

吉田 俊実

マードックの最新作であり、24作目を数える The Message to the Planet は、マードックの熱心な読者ならずぐに気がつくであろうが、それまでのマードックのいくつかの作品と重なる物語展開が見られる。また、登場人物もこれまでの作品にあらわれた人物を髪髯させるのであるが、この作品で際立つのは、その「風景」である。巧みな物語展開、緻密な人物描写、哲学的色彩の濃いテーマによって築き上げられる作品の世界に、これまでに見られないほど「風景」が関与している。自然も建物も、物語のなかで登場人物と一体化し、心象風景と言うより、むしろ、登場人物そのものであり、物語の構成に深くかかわって背景に留らない。これまでのマードックの「風景」と比較しながら、The Message to the Planet の「風景」を論ずる。

カウンセリング・ラーニングの実際

平川 敦子

“Counseling Learning” とは、Charles A. Curran によって始められた教授法で、語学教育の場合には CLL (Community Language Learning) とも呼ばれる。成人が外国語を学ぶ際の心理的な障害を教師が理解し、生徒を受け入れるという全人的な教育法である。

数名の生徒がテープレコーダーのまわりに円形にすわる。Target language で会話をし、知らない単語・いいまわしは自国語で言うと、教師がその生徒の背後から target language を与え、生徒はそれをくりかえし、正しい文章をテープに録音する。最後にテープを再生し、それをもとに listening や writing の学習を行なう。

最近演者はニューヨークの Riverside Adult Language Center で、Counseling Learning が実際に行なわれている様子を見学する機会を得た。ここでの経験と従来演者が教室で行なってきた方法を比較し、問題点の幾つかを述べる。

自然主義小説と都市のイメージ

高取 清

自然主義文学は本来的には都市文学である。従って、都市が小説の重要な背景となっている。特にアメリカにおいては、19世紀後半から急速に発展した資本主義経済を支配した自由放任主義 (laissez-faire) が、スペンサーの社会進化論に基づく最適者優先思想と相まって、急速な都市の発展を導いた。その結果、都市生活に多くの歪みが生じ、都市の二極化が進んだ。

もともと自然主義文学は、環境と遺伝という二大決定論のもとで、運命を支配される人間の生きざまをつぶさに観察することにある。特にアメリカ自然主義の場合は環境が重視された。自然主義者は、人生の暗い面に関心を抱き、都市生活における劣悪な条件のもとで苦しむ不適応者や弱者に視点を置いた。それゆえ、環境としての都市のイメージが作品の構成上重要な要素となっている。この発表では、都市環境がどのようにして、主人公の生活や人間性に影響を及ぼすか、また、都市をどのようなイメージで捕えているかを検討する。

アフレコとキャプションによる教授法

増澤 史子

アメリカ合衆国では難聴者のためにビデオキャプションが開発された。これは字幕スリーパーのように映画の中で話されている英語がそのまま出てくるものである。ただし、全ての台詞をカバーしているものではない。これを補助としてアフレコこと after-recording を授業として試みた。この授業では、いわゆる四技能である listening, speaking, reading, writing を総合的に織り込むことができる。また言語習得に効果的な状態といわれる student-centered, subject matter, stress-free を実行する事ができる。教室では未だに Grammar-Translation に依存している教師が多く、授業中の主役が生徒、学生であることを忘れてしまっている。つまり教えるはいるが学習させていない場合が多い。教師は準備段階に相当の時間をかけ、授業では生徒、学生が主体となって言語活動または学習をおこなうべきである。ここでは、生徒、学生中心の授業形態のひとつを紹介する。

フォークナーの『墓地への侵入者』について

--アメリカ南部における黒人と白人との関係を中心に

江田 治郎

白人少年、チャールズ(チック)・マリソンは、南部の遺産である白人の誇りを受けて継いでいたために、12歳の時に、黒ん坊らしく振舞わぬルカス・ビーチを、初めて出会う屈辱に苛まれ、憤りと無力さの真黒な深淵の中に陥ち込まれ、四年後、チックは白人を背後から射殺して捕えられ、今晩にもリンチされたチックスは南部の遺産と現実との狭間に立つ、ギャヴィン・ステューヴンスの援助により、自衛的にこの『墓地への侵入者』(1948)は、白人と黒人との溝を埋める役割り、担われ、さより、た、
せ、この『墓地への侵入者』(1948)は、白人と黒人との溝を埋める役割り、担われ、さより、た、
歩踏み込みで、より現、現実的な価値を見出し、モーク(1942)の延、長、線、上、に、あ、り、
この作品があり、「反リンチ法案と民主党の政綱の公権綱領の項目に對する強硬な反文捉え
が含まれている」と痛烈に批判したが、この作品を『行け、モーク』の延長線、上、に、あ、り、
てい、げ、ば、フ、ォ、ーク、ナ、ー、の、真、の、狙、い、が、解、明、さ、れ、よ、う、。

国境のない故郷

--G.グリーン『ヒューマン・ファクター』をめぐって

上野 和子

ヒューマンの反Humanism的宗教心の伝統を受け継ぎ、モーリヤックやベルナスの描く人
間の魂の闇の部分に強対峙する魅かれたグリーンの作品は、40年代の『大人しいアフリカ人』以来、主
題は、
おべりア旅は彼を向ヒューマン・ファクターに、作家の少年のみならず、アフリカの大陸は『心臓の形』とい
う、
と、
と、



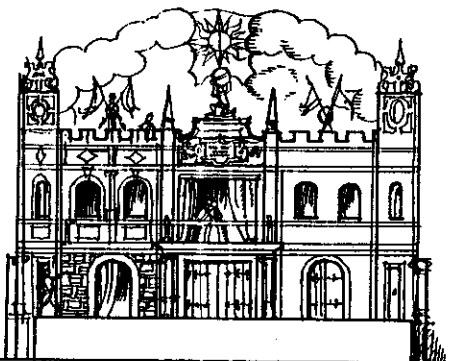
'Keeper - from life - April 24th 1838.' Emily Brontë, aged nineteen, home from Halifax, drew her father's new, fierce house-dog. She tamed him with her bare fists. He loved her.

オックスフォード大学1988年 Michaelmas Terms の講義で、ロビン・ロビンズ先生の講義「ラファエル前派、『肉感詩派』唯美主義者、デカダン派の芸術」は、花のイメージのシンボルをとりあげていました。フランス象徴派（ボードレー、ベルレーヌ、ランボー）のイギリス文学（イエイツ、スウィンバーン、ロセッティ、ワイルド）への影響について触れていました。世紀末を共時的な視点でとらえた場合、フランス象徴派の詩人やイギリスの詩人には、共通する花のイメージ・シンボルがあるようです。ここでは、ワイルドの花の象徴的意味について発表したいと考えております。

「書くこと」の指導

新妻 紘

- I. 研究の目的
- II. 研究の内容・方法
- III. 研究の経過
- IV. 文献からの「書くこと」の引用
 - 「書くこと」の理解
 - 「書くこと」の目標
 - 「書くこと」のコース
 - 「書くこと」の register
- V. 「書くこと」の分野
- VI. 「書くこと」の技能と他の技能との関連性
 - 「書くこと」と「話すこと」との相関
 - 「書くこと」と「読むこと」との相関
 - 「書くこと」と「聞くこと」との相関
- VII. 「書くこと」の 'Accuracy' と 'Fluency'
- VIII. Paragraph Writing
 - Comparison and contrast
 - Cohesion
 - Coherence



発行 現代英米文化学会編集委員会
佐藤治夫、石原 強、相良英明、中村 豪
大桃道幸、石川 郁二、宮本正和

(投稿時の宛先)

通常郵便
郵便番号 101
千代田区神田駿河台 1-8-13
日本大学歯学部 佐藤英語研究室内
現代英米文化学会編集委員会 宛

電子メール

[Domestic]
Nifty-Serve NAA00761 / PC-VAN XKF89898
[Foreign]
CompuServe 76662,112 / GENIE H.SATO